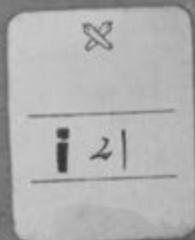


醫學心得方大略



醫學心得方大畧

醫學心得方大畧
傷寒論
方大畧
醫學心得方大畧



490.15
I

No. 2060
18 121

醫學心得方大畧



富士川文庫
232

醫學心得方大畧



九折堂山田
氏圖書之記

醫家脩業も多端なる千金方大醫習業の數條
を讀み其難きを知らず先弱冠の頃述ハ
儒書を専研究し其後醫書を研究せしハ年
を逐て病用も亦不く萬志の力と云ふ十分の脩業ハ
其兼ぬるものあり勿論治療と勤まがう讀書
の力をかくて日新の功を積むれば終身少成り也
て大業ハあり得やうに抑醫藉の賜をこころ
汗牛充棟儀指するに暇あるがごとく難素問

靈樞難經傷寒論金匱要畧八醫經七唱一傳家
の四書五經の如く尊奉するを樞の書あり執中傷
寒論の先輩平陽論を比し一冊の座をを新ら又か
臣の書あり金匱以還するは注解數十家ありて議
論紛々得失相半し後學は過從を承承あきま
當今の溝義を聽くに甚しき一二年一旬を終日
後論して三見一編の記あり此七羊の識を
よせざるあり後論も二卷に定めてあり此後
論のみと切破琢磨と心得れ往々空言に馳

せ詞鋒を逞むるを主とありて執括の兵と謀を
らしく大抵は無量の贅辭に陥るものや都て修業
の道は虚心平氣人の長を假して己が短を補ひ是
非の定め難きを我より上等の人を借問し其疑を
と決まへし此を積みおたふす方の差別ありとん
飲河の鼠の如く其を相應し出處らものあり
陶弘景の本草序例孫思邈の千金要方王焘の
外臺秘要、醫經二編をたらし必讀の書あり
降る詳叙微の本草方陳自明の婦人良方張從政

の徳門事親李杲の辨惑論脾胃論陳廣功の
外科正宗李時珍の本草綱目龍興廷賢の萬病
回春汪認庵の醫方集解本草備要吳有性の
溫疫論徐靈胎の醫國匯源流論寺の十數部も
亦必用の書あり其他醫經の注解并ニ聖惠方
聖濟總録醫統正脈醫心方類聚世薛氏世種景岳全
書張氏醫通等いつれも大抵の書あり共根
の者心掛て讀過せし資益鮮かりと

皇朝慶長以来 中野道三 中山三柳 香月啓益 名

古屋玄醫 北村壽安 芳村响益 後藤玄之 郎山 脇
道作 香川太仲 吉益周助 賀川千玄 永富鳳助
和国表純 原玄璣 久紀安長 等の著述も一覽し
て取捨せしめしやれど假名書の著述ニのヲ溺る捷
徑の術ニ古書の根柢と忽そし枝葉を索むるの
弊あり心を得て讀むべきあり世ニ一丁字を知らず
療治をあたふもの書物甚云運用の妙を得ずと
病人が子あり扱ひふられ甚そ假名書ニ醫家

三於てハ大衆人ともいふべし書の間巻才ニ種若古
とつる字面と世に口実とあはれ古訓とを求められ
ハ河ヲ勤るも行者ニあはぬ有る者手徒行
ニ病入の敵に攻むに老きるの極るもたとい
一時の利と得るも豈全勝を得んや或る
書也冬ふ者日ニ數百紙を費すとも手本おれハ
能書ニハより難きと同一理あり又万巻を讀
破して瘡に不攻者あるものあり是ハ我業の
むと忽ちもるもいふ也末の心得遠くも言ハ
と得るもあり畢者久命の至言と云行(眼)

着をハ老衰に至ると先次頼沛忘却と云ふる
答のるあり次や弱冠の輩ハ日夜刻苦勉勵
して上
君家の恩致報して父祖の名と辱めざる根心掛
くハ位素飲食の素とあはれんむと云

明治三年甲午春高崎城醫事所揭示の規則
草稿翌五年辛未醫事所廢止ハ此書面も
之用ニありたれ他日の為其後也と云者
あり
同四年辛未七月書誌藩内廢酷鼻の録)

